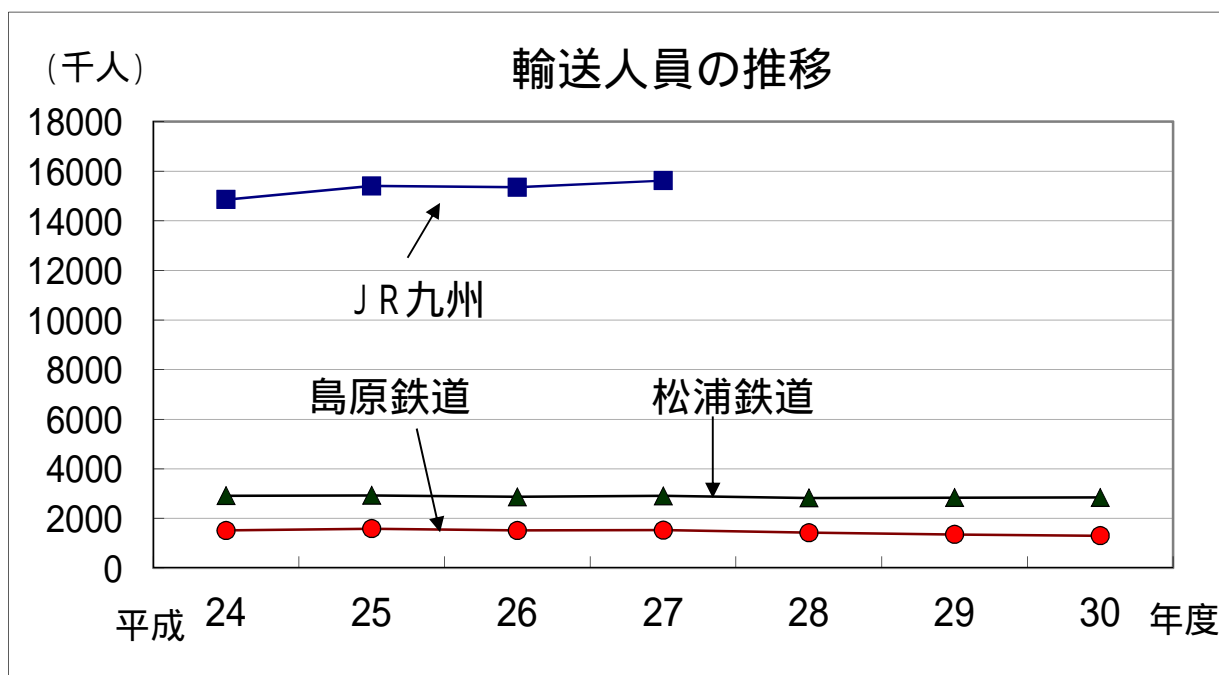


鉄道利用の概況



県内鉄道の緒元

(平成30年4月現在)

鉄道会社	営業キロ (km)	駅数	複線化キロ (km)	複線化率 (%)	電化キロ (km)	電化率 (%)
JR九州	127.2	37	8.1	6.4	60.8	47.8
島原鉄道	43.2	24	-	-	-	-
松浦鉄道	93.8	57	-	-	-	-

松浦鉄道は、全線(長崎・佐賀両県)に係るもの

利用者数の推移

(単位:千人)

平成(年度)	24	25	26	27	28	29	30
JR九州	14,859	15,407	15,353	15,621	-	-	-
島原鉄道	1,514	1,583	1,509	1,521	1,425	1,351	1,301
松浦鉄道	2,912	2,928	2,864	2,905	2,822	2,837	2,841

JR九州は、県内各駅の乗車人員の合計(平成28年度以降は非公表)

島原鉄道と松浦鉄道(長崎・佐賀両県)は、全線各駅の輸送人員の合計

本県に路線を有するＪＲ九州、島原鉄道、松浦鉄道は基幹的な輸送機関として、地域の均衡ある発展と利便性の向上のため、輸送力の増強と輸送サービス改善に努めている。

ＪＲ九州は、安全運行を基本に、より一層のサービス向上に努め、鉄道利用促進に取り組んでいる。特に、Ｄ＆Ｓ列車「或る列車」の運行や、地域のイベントと連携したＪＲ九州ウォーキングの実施など、地域に密着した顧客サービスの向上を図っている。

島原鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学はもとより、島原半島の観光振興にも重要な役割を果たしている。少子・高齢化などによる沿線人口の減少が進み、輸送人員が伸び悩む中、観光列車「カフェトレイン」を定期運行するほか、「キッズ祭り」、「島鉄健康ウォーク」をはじめとする地域と連携した各種イベントの実施など利用促進に努めている。

同社の輸送人員は、島原半島における少子高齢化の影響などを受け、平成３０年度は１，３０１千人で対前年度比９６．２％と前年を下回った。

松浦鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学、買い物等の日常生活に重要な役割を果たしている。

利用促進のための取組として「ビール列車」等の企画列車の運行に力をいれているほか、収支改善を図るため、平成２８年４月に約１０％の運賃改定を行った。

同社の輸送人員は、平成２２年度から概ね横ばいで推移しており、平成３０年度は２，８４１千人で、対前年度比１００．１％の微増となっている。平成２８年度は熊本地震や台風など自然災害が重なった影響を受けたが、その後は回復傾向にある。

島原鉄道、松浦鉄道ともに沿線人口の減少や少子高齢化の進行等により厳しい経営環境が続いており、安全運行確保のための施設の適切な維持・管理と併せて、より一層の利用促進などの取組が必要である。

(県新幹線・総合交通対策課)